

新年交歓会 岩田会長挨拶

一般社団法人 札幌建設業協会

皆様、新年明けましておめでとうございます。

一般社団法人札幌建設業協会の平成28年新年交歓会に、本日は、仕事始めで何かとお忙しい中、このようにたくさんの皆様にお集まりいただき、ありがとうございます。

- ①北海道開発局の本田局長
- ②高橋はるみ知事をはじめ、
- ③秋元札幌市長、
- ④さらには北海道商工会議所連合会の高向会頭など、

日ごろ、大変お世話になっております、各界、各層の皆様にもご出席を賜り、厚くお礼申し上げます。

昨年を振り返りますと、円安という風を受けて、外国人観光客の増加や個人消費の改善などに支えられ、北海道の景気は緩やかに回復しているものの、国や道からの建設工事請負金額は前年を下回るなど公共投資が減少し、建設業界としては大変厳しい年となりました。

このため、平成28年度の開発予算の増額や今年度の大型補正予算の確保について、私自身としても、本田局長や高橋知事のお力をいただきながら、国などに強く働きかけを行って参ったところです。

私達建設業者が将来に向けて技術者や技能者をしっかりと確保育成し、地域住民の安全・安心を守り、地域経済の一翼を担っていくためには、将来を見通せる公共事業予算を安定的かつ継続的に確保していくことが必要であります。

本日、通常国会が召集されましたが、この中で、平成27年度の補正予算が決定されますので、今後、各機関から発注される公共工事に、大いに期待しているところです。

どうか、皆様方の更なるお力添えを賜るようよろしくお願い申し上げます。

局地的な豪雨・暴風や巨大災害への対応などの課題も浮きぼりになりました。

栃木県や茨城県における昨年9月の「関東・東北豪雨」では3日間の降雨量が600ミリを超える記録的な豪雨により、鬼怒川の堤防決壊など大小河川が氾濫し、甚大な被害がもたらされたことは記憶に新しい出来事でありました。

地域の安全・安心なくして経済発展はありません。

札幌は道都であり北海道の様々な中枢機能が集中していることから、札幌の機能が失われることは北海道全体に大きなダメージを与えることとなります。札幌市としては、国や道さらには周辺の市町村と連携しながら、道央圏の強靱化に取り組む必要があると考えま

す。

このため、当協会としても独自に検討を行い、昨年11月に秋元市長に「国際防災都市を目指して」と題した札幌市の強靱化に向けた提言をさせていただいたところであり、これを参考にして、着実に安全・安心への取組みがなされていくことを期待するとともに、我々としても、お手伝いができればと考えております。

長年に及ぶ建設投資の大幅な減少と受注競争の激化により、建設業を取り巻く環境は大変厳しく、建設業の担い手不足や高齢化など構造的な問題が深刻な状況となっていることは皆様ご承知と思います。

このため、国においては品確法など「担い手3法」の改正を行い、昨年からその本格的な運用が進められております。

建設業の安定化や公共工事の品質確保に向けて発注者責務をしっかりと果たしていただくよう、実効性のある施策の推進などについてよろしくお願い申し上げます。

一方、我々受注者の責務とされた労働環境の改善など、働きやすい職場の実現に努めるとともに、建設業に興味や関心を寄せる若者を一人でも多く増やしていくことが重要と考え、昨年には、体験型の現場見学会や親子見学会などの先進的な取組みとともにPR漫画第2弾として「ただ今工事中（土木編）」も編集したところであり、本年も、建設業のわかりやすい魅力発信やイメージアップなどの取組みについて、積極的に進めていく所存であります。

いよいよ本年は、待望の新幹線が3月26日に北海道にやってくる記念すべき年であります。また、札幌建設業協会は、その前身である「札幌土木建築請負組合」が大正5年に設立され100年目を迎える大きな節目となる年でもあります。

本年5月30日にはこのホテルにおいて記念式典や祝賀会を開催するとともに、来月12日から地下歩行空間で開催予定の「工事写真展」をキックオフとして様々なイベントを企画し、これまでの協会の歩みや活動を広く発信して参る考えですので、皆様からの変わらぬご支援、ご指導をお願い申し上げます。

結びになります、

さる年は、悪いことがサル年で、幸せがやってくると言われております。

本日ご参集の皆様やご家族のご健勝とご繁栄、会員企業のますますの発展を心からお祈り申し上げますとともに、本年が実り多い1年となりますようご祈念申し上げ、私からのご挨拶といたします。

本日は、誠にありがとうございました。

※文責：事務局



工事量の継続確保を

札幌建協314人集い新年交歓会

札幌建設業協会は4日、札幌グランドホテルで新年交歓会を開いた。関係者ら314人が集い、経営の安定化と技術や技能が確実に継承でき

1年の健勝と繁栄を祈って盛大に鏡開きをした

り、「将来の技術者や技能者を確保育成し、地域の安全・安心を守り、地域経済の一翼を担うには将来を見通せる安定的・継続的な予算確保が必要不可欠」と強調した。

昨年11月に札幌市へ提言した地域強靱(きょうじん)化の実現を求めるとともに、取り巻く受注環境の悪化に対し、「担い手3法」によって発注者責務を果たす施策の推進」に期待を寄せた。一方で「働きやすい環境の実現に努め、本年も建設業の魅力発信やイメージアップを積極的に進める」と約束した。

ことしの創立100周年に因っては5月30日の記念式典をはじめ、2月

12日から開く工事写真展などさまざまなイベントを企画している。

来賓の本田幸一北海道開発局長は、新たな北海道総合開発計画のスタートに際し、「食と観光に力点を置く予算となる」と事業の特色を話した。

高橋はるみ知事は「3月26日の北海道新幹線開業が道民にとって、夢と地域の活性化に寄与すると思う」と抱負を述べた。

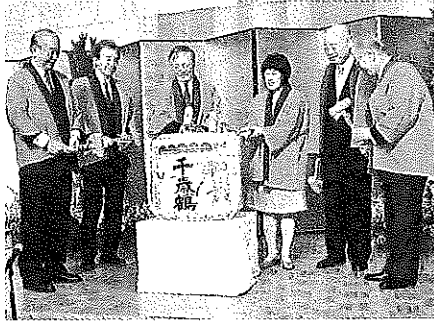
秋元克広札幌市長は冬季五輪の招致について「札幌の50年、100年後に欠かせない」と積極的な運動を決意した。

その後、岩田会長や伊藤義郎名誉会長ら6人が威勢よく鏡開きをし、北海道商工会議所連合会の高向巖会頭が乾杯の発声をして祝宴に入った。

札幌協が新年交歓会開催

100年の節目に飛躍誓う

300人が一年のスタート祝う



した。岩田会長はあいさつで、ことしが協会の前身「札幌土木建築請負組合」の設立から百周年を迎える節目の年とし、

飛躍を誓った。また、業界の健全な発展のため、「将来を見通せる公共予算の確保が不可欠」と述べ、関係者に訴えた。

また、昨年改正された担い手三法を受け、発注者が責務を果たしていくよう要請。受注者においても労働環境の改善など、働きやすい職場の実現に一層努めていくと誓った。

一般社団法人札幌建設業協会(岩田圭剛会長)は四日、札幌クラウンホテルで二十八新年交歓会を開催

た。会員企業の代表のほか、本道選出国会議員、関係行政機関、経済界等の来賓を

含めて約三百人が参加した。岩田会長は昨年の状況を、「国や道の工事請負金額は前年を下回り、業界にとって厳しい年となった」と説明。今後、建設企業が地域経済の一翼を担っていくため、「将来を見通せる公共予算が不可欠だ」とした。

また、昨年改正された担い手三法を受け、発注者が責務を果たしていくよう要請。受注者においても労働環境の改善など、働きやすい職場の実現に一層努めていくと誓った。

に積極的に取り組んでいく意向を示すとともに、業界の役割に期待を示した。

伊藤義郎名誉会長、岩田会長、本田局長、高橋知事、札幌市の吉岡亨副市長、道商連の高向慶会頭の六人が鏡割りを行い「写真」、高向会頭の音頭で乾杯。出席者は新年の幕開けを祝うとともに、本道の発展と業界の飛躍を祈念し歓談した。

来賓祝辞では、開発局の

本田幸一局長、高橋はるみ知事らが登壇。本道の開発